

流行性耳下腺炎（ムンプス）疑い例が発生したことについての対応

平成 27 年 12 月 13 日

医科学委員長 村井邦彦

今回、ボート強化指定選手のなかに流行性耳下腺炎の疑い例が発生し、合宿中止を余儀なくされました。このことに関連して対応を示します。

### 感染を疑われた選手に対する対応

本疾患はムンプスウイルスによる感染症です。患者の呼吸器の飛沫を吸い込んで、あるいは患者の唾液で汚染されたものと接触して、鼻や口を通して感染します。体内に侵入したウイルスは、鼻・咽頭部及びリンパ節で増殖し、唾液腺（耳下腺等）・すい臓・睾丸・卵巣・髄膜の炎症を引き起こします。

今回は JISS クリニックでムンプスを強く疑われ合宿できないと判断されたわけですが、施設の特性を考慮すると妥当な判断と言えるでしょう。通常は、血液検査で抗体が確認できればほぼ確定診断とされ、診断された患者は会社や学校を休み、他人との接触を控える必要があります。合併症によっては、入院治療が必要な場合もあります。さらに厳密な確定診断の為に血液や唾液などからのウイルスの分離を行う場合があります。

ムンプスは[学校保健安全法](#)において第二種の[学校感染症](#)に分類され、出席停止の対象となっています。登校基準は「耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後 5 日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで。」とされています。これを準用すれば、あと数日程度の経過観察後に体調が回復すれば、合宿に再び参加することができます。

### 選手と濃厚に接触した関係者に対する対応

対象選手の接触者として感染の可能性を疑うのは、唾液腺腫脹発現の 2 日前から 5 日後までの間の接触者です。この間に合宿等で濃厚に接触があった者は、今後の発症に備えなければなりません。

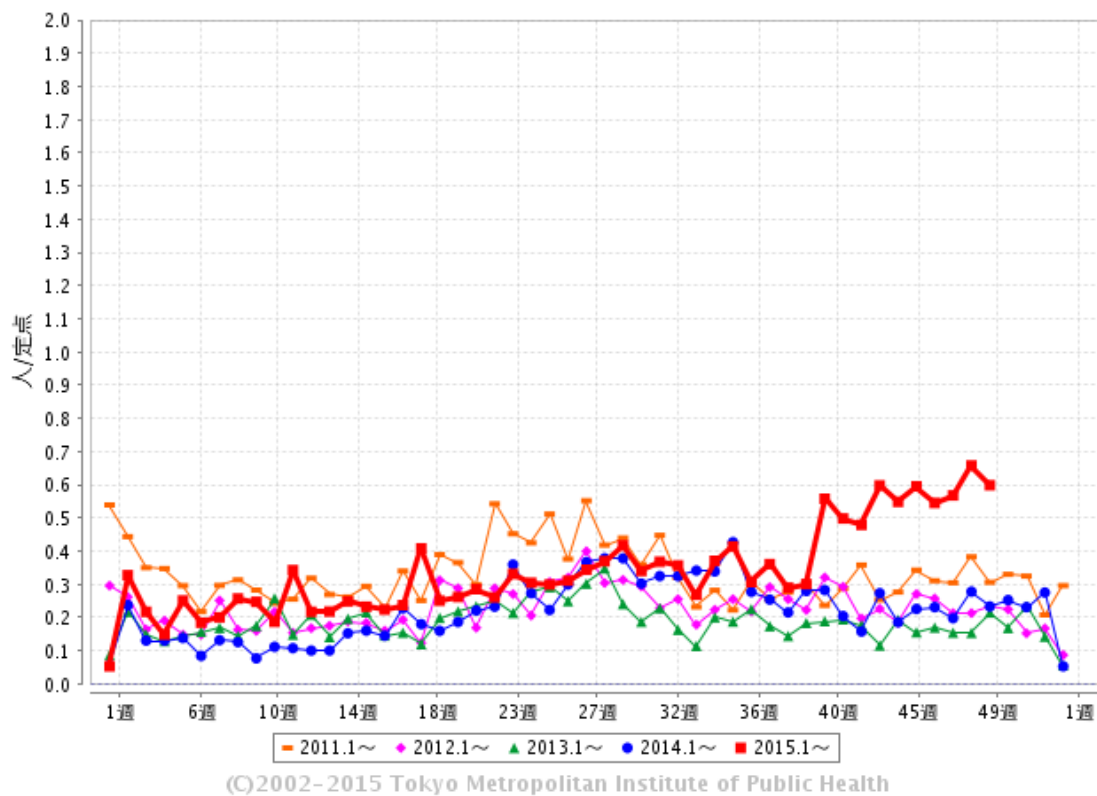
潜伏期は通常 16-18 日（12-25 日のこともあります）です。最初の症状は、筋肉痛、食欲不振、気分不快、頭痛、寒気、微熱あるいは中等度の発熱などです。これらの症状が 12-24 時間続いてから、耳下腺の症状が出てきます。

通常、1～2 週間で症状は軽快します。ただし、合併症として髄膜炎、髄膜脳炎、睾丸炎、卵巣炎、難聴、聾炎などの危険性があります。

過去にムンプスを発病すると生涯に亘る免疫を獲得するとされていますが、再度ムンプスを発病する場合もあることが報告されています。

### 全般的な対応について

現在、流行性耳下腺炎（ムンプス）は発生が増加傾向にあります。今後も同様のケースが発生することが予測されるため、マスク、手洗いのほか、顔を拭くタオルを共有しないなどの予防をしておくことが大切です。



東京都感染症情報センターより

以上